



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO

“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です



～その人らしさを大切に～

[当法人評議員]

武蔵野赤十字病院

後藤 智恵 [管理栄養士]

新年度が始まり、スタッフの入れ替え等で新しい出会いがあった方、また新しい職場でスタートを切った方はようやく落ち着いてきた頃でしょうか。

当院では今年度に新棟移転を控えており、期待と不安を抱えながらも準備を進めています。栄養課も今年度で管理栄養士が20名となりました。私が入職した時、管理栄養士は6名で、当時は電子カルテもありません。外来患者さんのカルテは見る機会もなく、病名と検査値のみの情報で栄養指導を行い、入院患者さんは病棟にある一冊のカルテを遠慮がちに見ながら最低限の情報を確認して対応する日々。振り返ると、右も左も分からぬ時に臨床糖尿病支援ネットワークでの勉強会や研修会等を通して、患者さんとの関わり方を学ぶことが多かったように思います。時は過ぎ、管理栄養士は増員、電子カルテも導入され、いつでも患者さんの詳細な情報が確認できるようになりました。現在は各病棟に管理栄養士を配置、より患者さんの近くで療養支援を行えるようになり、患者さんから教わることも多い毎日です。

先日栄養指導をした時のことです。患者さんは認知機能低下があり、病棟にいるときは病院のパジャマを着て表情も固く、車イスに座っている姿は自宅に帰って大丈夫だろうか…と不安を感じさせる印象でした。食事歴を伺っても「どうだったかな…」と言葉少なめで曖昧なご様子。しかし、途中からご本人の様子ががらりと変化しました。それは間食をするかどうか、といった内容を聞いた時でした。やや申し訳なさそうに、でも嬉しそうに「ついついしちゃうのよね」とお話しされるので、「なんだか嬉しそうですね」と声をかけると「実はね、もともと駄菓子屋やってたのよ」と、同席された息子さんも「子供よりも率先してお菓子を食べる駄菓子屋さんだったもんね」と笑ってお話ししてくれました。その患者さんやご家族にとってはその時の思い出はかけがえのないものだったので、そこからは口数も増えて普段の食事を摂る時の様子や食べ方の好みなどを振り返りながら教えてくれました。その時の目の輝きは今でも記憶に残っています。私たち管理栄養士は食事内容を聞いて情報提供するだけが仕事ではなく、患者さんの生活、ひいては人生そのものと向き合っているのだと改めて認識させてもらった出来事でした。

電子カルテでは病棟にいなくてもさまざまな情報を見ることができるの、ともするとカルテを見ただけで患者さんのことを知った気になり、向き合った気になってしまうこともあります。ですが、まずは患者さんの近くで顔を見てお話を聞く時間を大切に…時代や環境が変化しても、これまでと変わらず患者さんの側で「その人らしさ」を大切にした療養支援を行っていきたいと思います。



※新病院～当院HPより～



西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間において50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、1年につき2単位(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 経口血糖降下薬について、正しいのはどれか、2つ選べ。

(答えは3ページにあります)

- α-グルコシダーゼ阻害薬は単独投与でも低血糖を来す可能性が高い
- ビグアナイド薬は重篤な肝機能障害患者にも安全に使用できる
- グリニド薬は食前30分以内に服用するように説明する
- SGLT2阻害薬服用時は脱水予防のため適度な水分補給を指導する必要がある
- チアゾリジン薬は浮腫や体重増加に注意が必要である



報告

糖尿病災害対策委員会 第12回医療者向けセミナー

日時:令和7年3月7日(金)
オンライン

[当法人評議員] クリニックみらい立川 長谷部 翼 [理学療法士]

令和7年3月7日(金)、本委員会では能登半島地震の災害支援をご経験された2名の講師をお招きし、オンラインにて第12回医療者向けセミナーを開催しました。

基調講演では『能登半島災害支援報告～災害支援経験者からの学び～』として、武蔵野赤十字病院 看護師の田中 広美先生より『災害時の支援と日頃の備え』というテーマで、発災直後より能登総合病院を拠点とした災害支援活動をご講演いただきました。DMATと連携し避難所支援を行う際で苦労された経験をもとに、SMBG機器・インスリン製剤などはまとめて保管するなど、日頃から対策できるポイントも学びとなりました。健生会あきしま相互病院 理学療法士の清水 雄太先生からは、『理学療法士の立場から考えたこと』というテーマで、発災3ヶ月後に輪島市での災害支援活動についてご講演いただきました。後半には「移動の基本は歩く」となる中での備えとして靴や服装、歩く体力をつけておくことなど、我々の医療圈においても活用できる対策方法を教えていただきました(図1)。

パネルディスカッションでは、『メディカルスタッフの取るべき行動』をテーマに講師陣と参加者を交え討論が行われました。駒沢女子大学 管理栄養士の西村 一弘先生より、スフィア(人道支援の質と説明責任の向上を目的とした理念)やPFA(Psychological First Aid)について、被災者・支援者に対する支援の理論と実践方法を解説された中で、講師や参加者から充実した討論がなされました。

今回も100名近くの方にご参加いただきました。次回は9月に患者向けセミナーを企画しています。会員の皆様からも糖尿病を持つ方やご家族への広報にご協力ください。

報告

臨床糖尿病支援ネットワーク 第78回例会

日時:令和7年3月17日(月)
オンライン

[当法人理事] 吉元医院 吉元 勝彦 [医師]

第78回例会は令和7年3月17日(月)、「糖尿病と心疾患～心不全パンデミックに備えよう！～」というテーマのもとオンラインで開催されました。我が国では高齢化社会の進展に伴い、心不全患者が急増しています。さらに糖尿病は心不全のリスクを高め、一度合併すると予後が悪化するとされています。そこで今回は糖尿病と心不全に焦点を当てて、3名の先生に臨床的な内容でお話しいただきました。

まず、ミニレクチャー1では武蔵野赤十字病院の管理栄養士 村田 里佳先生に「患者さんの言葉から読み解く！～管理栄養士の実践的アプローチ～」という題でお話しいただきました。特に慢性心不全にも適応となったSGLT2阻害薬に関して、患者さんのフレーズから問題点を抽出しセルフチェックリストを用いて対応するといった臨床上大変重要な点についてお話しいただきました。次に、ミニレクチャーは海老名総合病院の理学療法士 藤谷 里砂先生に「糖尿病と心疾患～運動療法のポイント～」という題で実践可能な運動療法からシャアストレス、AGESなど専門的な内容までお話しいただきました。また、ストレッチング、レジスタンス運動、有酸素運動に関して具体的な説明もあり、大変参考となりました。そして、日本医科大学多摩永山病院 循環器内科の小谷 英太郎先生には特別講演として「心血管アウトカムから見た糖尿病治療薬の位置づけ」という題で、各種糖尿病治療薬についてご説明いただきました。特にSGLT2阻害薬やGLP-1受容体作動薬など心血管アウトカムの結果が良好な薬剤については専門かつ臨床的に大変わかりやすくお話しいただき、心不全を管理し、悪化を防いでいくという重要な点についての知識を深めることができました。

今回お話しいただいた各演題は、ともに明日からの診療に役立てる実践的な内容のものであり、当日は119名の方にご参加いただきました。

最後に、総合司会をお願いした住友 秀孝先生、例会ホストを務めていただいた中島 泰先生、開会の辞を述べていただいた近藤 琢磨先生、閉会の辞として会をまとめていただいた杉山 徹先生、そして例会に参加していただいた皆様に感謝いたします。



図 1



第62回日本糖尿病学会関東甲信越地方会

令和7年2月8日(土)～9日(日)

ライトキューブ宇都宮

東京都立多摩南部地域病院

根東 祐次 [医師]

第62回日本糖尿病学会関東甲信越地方会がライトキューブ宇都宮で令和7年2月8日(土)、9日(日)の2日間の日程で開催されました。非常にたくさんの方々が現地参加しており、「糖尿病合併症阻止のための包括的治療と全人的医療をテーマ」に、最新の知見をまとめた講義や、興味深いテーマの症例報告が行われました。

当院からも「全身の多発膿瘍および足壊疽に対し、集学的治療を要した2型糖尿病の1例」というタイトルで計8週間程度の抗菌薬治療を実施し、両側足趾の切断にまで至った症例を演題発表させていただきました。座長の竹林先生、比嘉先生やその他の先生方から、「両側足趾の切断にまで至った理由について」や「抗菌薬の選択理由について」などご質問をいただきました。発表を通して本症例を見直す良い経験となりました。

その他にも細菌性眼内炎や急性肺炎などを引き起こした重症症例についての症例報告もありました。糖尿病3大合併症はもちろんですが、糖尿病管理を日常行うことで、患者の感染症への罹患および重症化を予防することの大切さを改めて実感することができました。

また展示では、質の高いダイアベティスケアのための学びの場と各種ツールなどがありました。JADECが監修している「糖尿病を知る」というスマートフォンアプリや食事療法の工夫に関する冊子「糖尿病食事療法のあいうえ

お」、「いつまでも若々しく、活力ある生活をおくるために食事療法 さしつせそ」など、端的にまとまっており、時間の限られた外来での日常診療でもツールを使うことで糖尿病治療サポートを充実させていきたいと思いました。

糖尿病合併症は、患者の生活の質に深刻な影響を与える問題であり、医療従事者も正しく具体的な知識や技術を身につけ、患者啓発に取り組むことが合併症予防の第一歩となることを再認識することができました。



答え 4, 5 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説



1. × 可能性が高い⇒可能性は低い
2. × 安全に使用できる⇒使用しない

【禁忌】重度の肝機能障害のある患者[肝臓における乳酸の代謝能が低下する。]

【慎重投与】軽度～中程度の肝機能障害[乳酸アシドーシスを起こすおそれがある。]

3. × 食前30分以内⇒食直前
4. ○
5. ○



研究会等のセミナー・イベント情報



◆主催事業 ◆共催・後援事業 □その他

◆西東京CSII普及啓発プロジェクト 第28回研修会

申込必要

テーマ：『780Gポンプレポートの読み方・AIDの評価～小児科・内科トランジションなど』

開催日：2025年6月17日（火）19：20～21：00

会場：Zoomにて開催いたします

オンライン

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/17締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

◆第11回西東京糖尿病と感染症フォーラム

申込必要

開催日：2025年6月18日（水）19：30～21：05

参加費無料

会場：Zoomにて開催いたします

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください（6/15締切）

オンライン

問合せ：大正製薬（担当：岩崎）TEL：090-5997-7449

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

◆第36回武藏野糖尿病医療連携の会Hybrid学術講演会

申込必要

開催日：2025年6月21日（土）17：00～19：00

ハイブリッド

会場：Zoom／立川相互病院 2階講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）

参加費：医師1,000円 医師以外500円 ※現地参加者のみ

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください（6/20締切）

問合せ：サノフィ（担当：河村）メール：satoshi.kawamura@sanofi.com

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中 他

◆2025年度 西東京糖尿病療養指導プログラム（CDEJ1群）

申込必要

第21回 西東京教育看護研修会

第9回 西東京臨床検査研修会

第21回 西東京病態栄養研修会

第9回 西東京運動療法研修会

第21回 西東京薬剤研修会

開催日：2025年7月13日（日）9：25～

オンライン

会場：Zoomにて開催いたします ※運動療法のみハイブリッド開催（会場：立川相互病院）

参加費：通常[6/2～6/30] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「2025年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」より
お申し込みください。（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中 他

◆西東京CDEの会 第23回例会

申込必要

テーマ：『がんと糖尿病について』

オンライン

開催日：2025年7月26日（土）13：00～16：15

会場：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 2,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（7/26締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/> Email:info@cad-net.jp

編集後記



先日、自宅の近くで「土筆（つくし）」を見つけ、春の訪れを感じました。土筆は食材としてビタミンE、ビタミンA、ビタミンB群、カリウム、鉄分など、様々な栄養素が含まれているようです。といっても、自分はまだ土筆を食べたことがないのですが、皆さんはいかがでしょうか。来年の春には挑戦してみたいと思っておりますが、美味しい食べ方があればぜひ教えてください。（広報委員 佐藤 文紀）